

2007年12月27日

株式会社 富士経済  
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町  
 2-5 F・Kビル  
 TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165  
 URL: <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>  
 URL: <https://www.fuji-keizai.co.jp/>  
 広報部 03-3664-5697

## ジェネリック（後発）医薬品市場の調査を実施

2009年のジェネリック医薬品市場は3,379億円と予測、  
 金額ベースでは医療用医薬品市場の5.0%

総合マーケティングビジネスの（株）富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811）は、処方箋様式の変更や厚生労働省による「後発医薬品の安心使用促進アクションプログラム」などにより成長が期待される国内ジェネリック医薬品の市場を領域別・企業別に調査・分析した。その結果を調査報告書「2007ジェネリック医薬品データブック」にまとめた。

本報告書におけるジェネリック医薬品は診療報酬点数表における後発医薬品に属するものとし、他の製薬企業への出荷を除いたものとした。また、全体市場は、既刊の「2006 医療用医薬品データブックNo.1～No.3」「2007 医療用医薬品データブックNo.4～No.6」の調査範囲とし、ジェネリック医薬品では生理食塩水、漢方製剤を除いている。

### <調査結果の概要>

ジェネリック医薬品市場は、従来からの企業に加え、先発品だけでは実績拡大を見込めない大手企業から中堅企業までが参入し、また、世界でトップ10に入る外資系企業の本格的な日本での事業開始などにより、更に注目が集まっている。また2002年以降大型製品の特許切れがはじまっており、今後も大型製品の特許切れが想定され、年2回の後発品収載の開始などジェネリック医薬品を取り巻く環境は急激に変化している。

	2006年	2007年見込	2009年予測
ジェネリック医薬品市場	2,875億円	3,091億円	3,379億円
ジェネリック医薬品の構成比	4.6%	4.8%	5.0%

ジェネリック医薬品市場は、2006年4月の処方箋様式の変更、行政のジェネリック医薬品促進策などにより、2006年に前年比7.2%増の2,875億円となり、2007年は前年比7.5%増の3,091億円が見込まれる。2007年10月には厚生労働省から「後発医薬品の安心使用促進アクションプログラム」が発表され、2012年（平成24年）までにジェネリック医薬品の数量シェアを30%とする目標を掲げ、2008年4月には処方箋様式が、後発品に変更可の時にチェックする方式から変更不可の時にチェックする方式に変更される見込である。また、ある一定程度のジェネリック医薬品を調剤した薬局の調剤報酬の引き上げも検討されている。このようなジェネリック医薬品の促進策により今後も市場は順調に拡大すると予測される。

領域別に見ると、2006年にジェネリック医薬品の構成比が10%を超えているのは輸液製剤・栄養剤・ビタミン剤、痛風・高尿酸血症治療剤、消毒剤・褥瘡治療剤、抗ウイルス剤、その他消化器用剤の5領域である。

輸液製剤・栄養剤・ビタミン剤のジェネリック医薬品の構成比の高い要因としては、先発品を発売している企業がジェネリック医薬品も品揃えの一つとしてトータルにプロモーションしていることが挙げられる。また、DPC（Diagnosis Procedure Combination：入院患者の病名とその症状・治療行為をもとに厚生労働省が定めた投薬、注射などの1日当たりの包括評価部分と手術、麻酔などの出来高評価部分を組み合わせて計算する方式）による医療費削減の目的に合致すること、費用が抑えられることから増加している。ビタミン剤では「メチコパール」（エーザイ）のように、ジェネリック医薬品扱いの製品が多いことも特徴である。

ジェネリック医薬品が拡大している領域は注射剤を持つその他循環器用剤、抗生物質が中心である。しかし、高脂血症治療剤、上部消化器管疾患治療剤のように経口剤が中心であるものの、ジェネリック医薬品のターゲットとなる製品がある領域ではジェネリック医薬品のシェアが高くなっている。2009年には、抗真菌剤、体内診断薬、眼科用剤の3領域もジェネリック医薬品の構成比が10%を超えると予測される。抗真菌剤は、2004年から2005年にかけてトップブランド2製品(「ラシミール」, 「イトリゾール」)のジェネリック医薬品が相次いで発売されたことにより市場が拡大しており、ジェネリック医薬品の構成比は2006年の8.5%から2009年は15.7%に高まるとみられる。

2006年4月の処方箋様式の変更により、ジェネリック医薬品大手企業は調剤薬局ルートへの攻勢を強め、2007年3月期決算では好調な業績を上げている企業が多い。相次ぐジェネリック医薬品促進策や、大手ジェネリック医薬品企業による広告により、患者のジェネリック医薬品への認知度は高まっている。しかし、処方している医師や薬剤師などからは先発企業と比較して情報提供の少なさや、供給面の不安を懸念する声も出始めている。これらの不安材料を解決し、信頼度を増すことにより、ジェネリック医薬品全体の市場は拡大し政府の目標数値に近づいていくとみられる。ジェネリック医薬品の手続きはジェネリック医薬品の販売が中心であるが、中堅以下の企業では受託製造に注力する傾向が見られる。

#### <降圧剤市場>

	2006年	2007年見込	2009年予測
ジェネリック医薬品市場	179億円	210億円	260億円
ジェネリック医薬品の構成比	2.2%	2.5%	2.9%

ジェネリック医薬品はACE阻害剤や 遮断剤・ 遮断剤・ 遮断剤が中心である。Ca拮抗剤では2006年7月に「コニール」(協和発酵工業)のジェネリック医薬品が発売されている。「ノルバスク/アムロジン」(ファイザー/大日本住友製薬)のジェネリック医薬品も近い将来発売が見込まれるため、Ca拮抗剤の比率が高くなると予測される。処方箋様式の変更を契機に、調剤薬局での処方拡大は着実に進んでいる。今後ジェネリック医薬品の発売が見込まれる大型オリジンは「ノルバスク/アムロジン」, 「タナトリル」(田辺三菱製薬)「エースコール」(第一三共)が挙げられる。中でも「ノルバスク/アムロジン」はそれぞれの企業の売上トップブランドであることからジェネリック医薬品の登場により売上を大幅に減少すると業績への影響が避けられない状況である。

#### <高脂血症治療剤市場>

	2006年	2007年見込	2009年予測
ジェネリック医薬品市場	144億円	155億円	176億円
ジェネリック医薬品の構成比	4.6%	4.8%	5.2%

新薬兼業企業によるジェネリック医薬品の発売が多く、メタボリックシンドロームを背景に病院ルートを開拓することにより順調に拡大している。政府のメタボリックシンドロームの広報活動による、慢性疾患＝ジェネリック医薬品とする流れを追い風に、2006年には140億円を超える市場となった。「メバロチン」(第一三共)のジェネリック医薬品の登場によって、一躍脚光を浴び新薬兼業企業、ジェネリック医薬品専門企業双方にとって注力領域の一つとなっている。高脂血症治療剤ではHMG-Coa還元酵素阻害剤が主流となり、ジェネリック医薬品でも「メバロチン」(第一三共)のジェネリック医薬品が参入各社で好調に推移し、長期服用の面からも競合関係が年々強まると見込まれる。また、今後の有力製剤と目される「リピトール」(アステラス製薬)は、ジェネリック医薬品への対抗策を含め、2007年に新聞広告によるDTC(Direct To Consumer:製薬会社が一般消費者に対して医療用医薬品に関する直接プロモーションを行うこと)活動を行い、医療機関だけでなく患者へのアプローチを通して先発品のアドバンテージを模索している。新薬企業の中には、ジェネリック医薬品への対抗策として、特許切れ前の取り組みを行うケースも出ている。

<調査対象>

A. 調査対象薬効領域

- |                 |                 |                      |
|-----------------|-----------------|----------------------|
| 1. 降圧剤          | 2. その他循環器官用剤    | 3. 抗生物質              |
| 4. 抗ウイルス剤       | 5. 抗真菌剤         | 6. 統合失調症治療剤          |
| 7. その他精神神経疾患治療剤 | 8. 上部消化管疾患治療剤   | 9. その他消化器官用剤(緩下剤)    |
| 10. 喘息・COPD 治療剤 | 11. その他呼吸器疾患治療剤 | 12. 高脂血症治療剤          |
| 13. 糖尿病治療剤      | 14. 痛風・高尿酸血症治療剤 | 15. 解熱消炎鎮痛剤(外用剤含む)   |
| 16. 抗がん剤        | 17. 体内診断薬       | 18. 変形性関節症治療剤・抗リウマチ剤 |
| 19. 骨粗鬆症治療剤     | 20. 消毒剤・褥瘡治療剤   | 21. 泌尿器疾患治療剤         |
| 22. 栄養剤・ビタミン剤   | 23. 眼科用剤        |                      |

B. 事例研究対象企業

- |                |              |                |               |
|----------------|--------------|----------------|---------------|
| 1. 沢井製薬        | 2. 大洋薬品工業    | 3. 東和薬品        | 4. 日医工        |
| 5. メルク製薬       | 6. 富士製薬工業    | 7. 大正薬品工業      | 8. 日本ケミファ     |
| 9. 共和薬品工業      | 10. 明治製菓     | 11. テイコクメディックス | 12. あすか製薬     |
| 13. 日本化薬       | 14. 小林化工     | 15. ニプロファーマ    | 16. キョーリンメディオ |
| 17. 高田製薬       | 18. 辰巳化学     | 19. 日新製薬(山形)   | 20. 昭和薬品化工    |
| 21. エルメット・イーザイ | 22. 扶桑薬品工業   | 23. 丸石製薬       | 24. サンド       |
| 25. 日本点眼薬研究所   | 26. 岩城製薬     | 27. 大原薬品工業     | 28. 三和化学研究所   |
| 29. アルルッサファーマ  | 30. 日本ジェネリック | 31. ホビオ・ラ・ジパロン | 32. ホルヘルスターズ  |

<調査方法>

富士経済調査員による対象企業及び関連企業・団体などへの面接取材及び公的統計データなどによる情報収集

<調査期間>

2007年9月～11月

以上

資料タイトル:「2007 ジェネリック医薬品データブック」

体 裁 : A4判 411頁

価 格 : 200,000円(税込み210,000円)

調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 第二事業部

TEL:03-3664-5831 (代) FAX:03-3661-9778

発 行 所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL:<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

URL:<https://www.fuji-keizai.co.jp/>